

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	ICT を活用した慢性看護学実習の教育教材の作成と評価				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	田中 範佳
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	前野 真由美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	鈴木 郁美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子

講演題目	ICT を活用した医療系教育の文献レビューに基づく 慢性看護学教育のコンテンツと教育方法の抽出
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究目的】大学教育のデジタル化が推進される中で、さまざまな医学系分野で ICT を活用した教育に関する研究が行われ、未知の現場体験、患者の状態変化の判断力の向上、繰り返しの実地体験が困難な技術の技術力の向上などの効果が報告されている。そこで、関連する先行研究を概観し、長期的に闘病・療養を要する患者・家族を理解しその人らしい生活・人生を送るための看護実践を学ぶ慢性看護学教育における教育のコンテンツと方法を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【成果と今後の展望】医療系大学の教育における ICT 活用教育に関する文献をレビューした。2020 年からさまざまな看護学専門領域においてコロナ禍での臨地実習の代替法（シミュレーターや電子カルテの利用、模擬患者の活用、現場の動画視聴など）を用いた研究成果が多く報告され、学生の知識獲得や疑似体験を可能にする効果がある一方で、臨場感の不足、対人関係を通じた学びの不足が課題とされている。2021 年以降、主に Virtual Reality (VR) や Augmented Reality (AR) を用いて、実場面での体験や繰り返しの体験が困難な場면을疑似体験することによって、臨場感を体験しながら知識やスキルと獲得する・問題解決能力を向上する効果が報告されている。また、VR 視聴に体動・におい・音といった感覚的な刺激を加えることによって、さらにリアリティとインパクトのある体験を提供できること、俯瞰場面と焦点化場面を使い分けることでさまざまな視点の学習機会を提供できること、学習者個々の体験の意見交換によって学習効果を高めること、ゲームの要素を取り入れたゲーミフィケーションを活用することで主体的な学習を可能にすることも報告されている。また、研修医ががん告知や積極的治療中止の告知などの場面の VR 視聴で医師としての姿勢を体験的に学ぶ機会となること、看護学生が認知症患者や精神疾患患者の視点の VR 視聴で主観的に対象を理解し効果的な看護を考える機会となることも報告されており、VR は知識やスキルの獲得だけではなく、態度教育にも効果があると報告されている。一方で、VR 視聴による動揺が身体の不調を招く可能性や設定した場面が学習者の苦痛体験の想起から心理的苦痛体験を招く可能性があること、期待する学習効果とそれを可能にする場面・シナリオ設定の難しさが課題とされている。以上のことから、慢性看護学においても VR を用いることで、(1)何らかの機能障害を有し長期的な闘病・療養を必要とする患者の視点での VR 視聴を通して主観的に対象を理解すること、(2)療養環境を含めた患者の俯瞰 VR 視聴によって非言語的情報の収集スキルを高めること、(3)上記の VR 視聴後に学生間で意見交換を行って同じ VR を再視聴することで新たな視点を発見し学びを深めること、が期待できると考える。慢性看護学に特化した VR を用いた教育に関する先行研究は見当たらず、この教育に取り組み、その効果を明らかにすることで、慢性看護学教育の新たな方法の可能性を提示できると考える。</p>